

(有)コスモス

急性期病院からの紹介が約4割 入居率93%の重度者特化型の有老ホーム

有限会社コスモス(前橋市)が運営する「ナーシングホームあい暖^{ぬくもり}」(119室)は、医療必要度の高い高齢者の受け入れに特化した住宅型有料老人ホームである。入居者の平均要介護度は3.8~4.1と重度者中心。経管栄養の入居者が約50人と4割を超える。

入居者の紹介ルートは急性期病院からの退院が39.2%(2013年4月~2014年4月)と4割近くに上る(図1)。「改定後は、在宅復帰要件が導入された慢性期病院などからの紹介も増えている」と企画兼総務部長の渡辺隆宏氏は語る。

看護師を日中16人、夜間4人配置

代表取締役の小和田幾野氏は看護師の出身だ。「医療が必要な重度者の退院先が非常に少ないことから、受け

皿となるような高齢者住宅をつくらうと考えた」と話す。例えば1~2時間おきの喀痰吸引や抗癌剤治療、インスリン注射などの医療行為が必要な患者については、看護師の配置の問題などから、地域の介護保険施設が受け入れられる数には限りがあるという。

「その点、当施設では配置している看護師の数が多い。訪問看護や訪問介護の提供も、できるだけ区分支給限度基準額内に収め、自己負担が増えないように対応している」(小和田氏)。

開設は2012年3月。関東近郊の急性期病院に飛び込み営業などで周知した結果、東京や千葉の病院から退院先として入居するケースが増えた。71室で開設したが満室が続いたため、2013年6月に48室を増室し、現在の規模になった。「病院との退院調整には、当方も必ず看護師と相談員の2人体制で赴く。退院患者の容態や必要な医療行為を把握するには、看護師同士で情報交換



経管栄養の入居者は4割を超える

してもらるのが確実」と渡辺氏は話す。

ホームには看護師55人、介護職65人の計120人が在籍。施設長は認知症介護指導者の資格を持ち、副施設長はベテラン看護師を据えた。日勤帯は看護師16人と介護職16人、夜勤帯には看護師4人と介護職4人を配置する。

看護師の配置が多いため、損益分岐点は入居率90%と高い。しかし、現在の入居率は約93%で黒字を維持。「面積基準がサービス付き高齢者向け住宅に比べて狭くて済む住宅型有老ホームで開設し、居室にトイレなど水回りを設けないなど初期投資を抑えた。経費節減も徹底している」と渡辺氏は話す。

特に多い経管栄養の入居ニーズに対応するために、2014年7月には経管栄養と中心静脈栄養専門の住宅型有老ホーム「ナーシングホームあい馨」(36室)を群馬県安中市で開設する予定。利用料金は月10万2080~10万4080円(家賃相当額が4万7000~4万9000円、管理費が2万5920円、経管栄養管理費が2万9160円)。病院からの受け皿をさらに増やしていく考えだ。

ナーシングホームあい暖



運営母体:(有)コスモス
所在地:前橋市
開設時期:2012年3月
居室数:119室
居室面積:13.01~14.96m²
月額利用料:10万8700~12万1700円(家賃相当額:4万6000~5万9000円、管理費2万4000円、食事代3万8700円※)
併設事業所:訪問看護、訪問介護、通所介護、居宅介護支援、クリニック

※経管栄養の入居者の場合は経管栄養管理費

図1●ナーシングホームあい暖の入居経路
(2013年4月~2014年4月)

